

令和9年度
第3年次編入学生選抜
第2次学生募集要項

工 学 部



国立大学法人

九州工業大学

本学生募集要項の内容に変更が生じた場合は、速やかに本学ホームページにてお知らせします。

○入試に関する重要なお知らせ

<https://www.kyutech.ac.jp/examination/>



第3年次編入学生選抜（第2次） 出願から入学手続までの流れ

選抜方法・選考方法・出願資格・出願期間・日程等を確認する

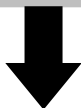


提出書類を確認・準備する



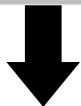
入学検定料を支払う

納付期間：令和8年8月21日（金）～9月4日（金）



提出書類を郵送または持参する

提出期限：令和8年9月4日（金）17時【必着】



受験票を受け取る

令和8年9月10日（木）～9月15日（火）



試験を受ける

令和8年9月25日（金）



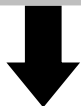
合格発表を確認する

令和8年10月14日（水）10時～



第1次入学手続を行う

令和8年11月6日（金）17時【必着】



第2次入学手続を行う

令和9年2月17日（水）16時30分【必着】

目 次

九州工業大学のアドミッションポリシー	1
1. 募集人員及び選抜方法	2
2. 出願資格	2
3. 試験日及び試験場	2
4. 選考方法等	3
5. 編入学年次	3
6. 履修及び修業年限	4
7. 第3年次編入学生の単位認定等	4
8. 出願手続及び出願期間等	4
9. 出願上の注意事項	6
10. 障がい等を有する入学志願者の配慮に関する事前相談	7
11. 志願状況	8
12. 受験票	8
13. 受験上の注意事項	8
14. 合格発表	9
15. 入学手続	9
16. 入学手続時の納付金	10
◆高等教育の修学支援新制度	10
◆奨学金制度	10
17. 入学試験成績の開示	11
18. 個人情報の取扱い	11
19. 入学試験に関する問い合わせ先	12
20. 安全保障輸出管理	12
21. ノートパソコンの必携	12
22. キャンパス全面禁煙	12
23. 工学部のアドミッションポリシー	13
◆入学検定料の払込取扱票（記入例等）	15
◆各種の資格等	16
◆大学院	17
◆厚生施設	17
◆学生の国際交流	17
◆卒業生進路状況	19
◆学部の案内	20
◆過去の編入学生選抜実施状況	23
◆九州工業大学の所在地	24
◆試験場までのアクセス	25
◆令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）の変更点 [予告]	26

九州工業大学のアドミッションポリシー（入学者受入方針）

建学の精神：技術に堪能（かんのう）なる士君子

今をさかのぼること110余年、明治42年（1909年）、北九州・戸畑の地（現在の北九州市戸畑区）に九州工業大学の前身である私立明治専門学校が開校しました。戸畑からほど近い八幡の地には明治34年（1901年）に官営八幡製鉄所が設置され、日本の近代化を殖産興業から支えた重要な産業拠点となりました。八幡製鉄所を含む北部九州を中心に現存する歴史的な産業建造物群は2015年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録され、その歴史的価値を世界に認められたことは記憶に新しいところです。

これらの産業施設に魂を込めるべく、日本における技術者（エンジニア）の養成を旗印として、当時の高等教育の巨人、山川健次郎博士を初代総裁として招き、安川敬一郎および松本健次郎の巨額の寄付のもと設立されたのが明治専門学校です。このときに示されたのが「技術に堪能なる士君子」の養成、すなわち技術に精通するとともに、道義心のある人格者を養成することを目的に、単に学問・技術を授けるのではなく、人間形成にも重点を置いた教育を行うという建学の精神です。本学はその設置形態を私立から官立、そして国立大学へと変えつつも、この建学の精神を脈々と受け継ぎ、明治、大正、昭和、平成を経て、令和の現在に至るまで、日本の近代化、工業化、産業の発展に貢献する、7万人を超える優れた技術者を輩出し続けてきました。

また、昭和61年（1986年）には、情報通信革命が始まる中、日本の情報通信技術を支える技術者を輩出するために、福岡県飯塚市に情報工学部を設置しました。平成12年（2000年）には、生命（バイオ）のもつ特性を工学的に活用し21世紀を支える技術を創出する技術者を輩出するため、北九州市若松区の学研都市内に生命体工学研究科を設置しました。

九州工業大学は、Society5.0を目指して急速に社会が進展する中で、工学・情報工学・生命体工学の各分野で新たな知識と技術を生み出し続ける研究力を背景としながら、常に日本の産業を支え、世界で活躍できる技術者を育てる学びの場を提供し続けています。そして多くの卒業生が企業の中核技術者や経営者として社会を支え、未来を切り拓いています。

九州工業大学は、「技術に堪能なる士君子」の養成という建学の精神のもと、幅広い理工学分野における教育と研究を通して人類・社会に貢献することを基本理念としています。この理念に則り、「ものづくり」と「情報」における新しい技術と科学の発展のため、深い専門性と幅広い知識・教養、多様な人々と協働するために必要なコミュニケーション力および技術者として必要な倫理観を備えた人材を育成し、グローバル社会で活躍できる優れた技術者（グローバルエンジニア）としての能力を発展・向上させることを使命としています。

そこで、本学が入学者に期待することは以下のとおりです。

- (1)理工学分野の学修の基盤となる、数学、理科（物理、化学、生物等）、情報などの理数系教科・科目に高い学力を持っていること。
- (2)理工系人材として成長する強い意志と、「社会をより良くする何かを残したい、社会の問題を解決したい」という夢をもち続け、自らそのために行動できること。
- (3)国際化に対応できるコミュニケーション力の修得や、様々な文化を理解し受容することに前向きであること。
- (4)自律的な学びから広い視野を持ち、多様な人々と協働することを通して、創意・発見する知の探究を持続する必要性を理解していること。

本学の第3年次編入学生選抜では、理工学分野の学修の基盤となる学力や理数系の思考力・応用力に加え、工学や情報工学に対する知的好奇心や熱意、専門に対する適性を総合的に評価し、3年次からの修学に必要な学力を備え、専門技術者への強い志向を持つ皆さんを受け入れます。

1. 募集人員及び選抜方法

学部	学科・コース	募集人員	選抜方法
工学部	機械知能工学科 (知能制御工学コース) (機械工学コース)	3名	一般選抜
合計		3名	

※ 上記以外の学科は、第2次募集を実施しません。

※ 出願時に志望の学科及びコースを1つだけ選択してください。

なお、出身学校での専門分野と異なる学科及びコースを志望する場合には、4ページ「7. 第3年次編入学生の単位認定等」をよく読んでうえで志望する学科及びコースを選択してください。

2. 出願資格

学部	選抜方法	出願資格
工学部	一般選抜	次のいずれかに該当する者 (1) 高等専門学校本科を卒業した者または令和9年3月卒業見込みの者 (2) 短期大学の理工系学科を卒業した者または令和9年3月卒業見込みの者

※ 推薦選抜は実施しませんので、出身学校長の推薦は必要ありません。

※ 3年次からの工学専門教育の勉学に必要な基礎学力を備えていることを期待します。

※ 外国の学校等は対象となりません。

3. 試験日及び試験場

試験日	試験場	集合場所
9月25日(金)	九州工業大学工学部 (戸畑キャンパス) 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号	九州工業大学工学部 総合教育棟 C-1D 講義室 (24・25ページの地図を参照)

(注) 集合時間は、受験票により通知します。(受験票については8ページをご確認ください。)

4. 選考方法等

(1) 選考方法

選抜方法	選考方法
一般選抜	調査書及び面接の結果を総合して行います。 調査書は点数化して評価します。 各学科で行われる面接には、基礎学力（数学・理科）や工学に対する適性等に関する口頭試問が含まれます。

(2) 採点・評価基準と合否判定基準

採点・評価基準	合否判定基準
【面接点】 ①調査書所見 ・面接時の質問項目として反映させます。 ②面接のチェックポイント ・基礎学力（数学・理科の理解力・論理性・計算力・表現力を含みます。） ・工学に対する適性等（知的好奇心、工学に対する熱意、専門に対する適性等を含みます。） 【調査書点】 ・調査書を点数化します。 【配点】 ・面接点 600 点満点，調査書点 400 点満点，合計 1,000 点満点で評価します。	面接と調査書の点数を合計し，総合点の高い順とします。同点の場合は，特定評価の点数の順とします。

(3) 口頭試問の出題範囲

工学部の面接における口頭試問の出題範囲は，以下のとおりです。

学科	コース	出題範囲	
機械知能工学科	知能制御工学コース	数学	線形代数，解析（微分・積分），ラプラス変換
		工学専門	計測制御工学
	機械工学コース	数学	線形代数，解析（微分・積分）
		物理	力学
		工学専門	材料力学，機械力学，熱力学，流体力学，加工学

5. 編入学年次

第3年次とします。

6. 履修及び修業年限

修業年限は2年、在学できる期間は4年以内とします。

編入学生は、入学する学科・コースが定めるカリキュラムに従って卒業要件を満たすよう単位を修得しなければなりません。

7. 第3年次編入学生の単位認定等

第3年次編入学生に対しては、工学部学修細則に基づいて、修得済科目の単位認定が行われます。

単位認定は、入学する学科が開設している授業科目の内容と高等専門学校や短期大学（以下「高専等」という。）において修得した科目の内容の同等性があるものについて行われます。

したがって、卒業要件を満たすために必要となる授業科目等は、入学する学科、高専等において修得した科目、認定される単位数等の違いにより、各編入学生において異なります。単位の認定は、工学基礎科目及び工学専門科目が65単位以内など、科目区分ごとに定められています。認定総単位数の上限は80単位です。認定された単位を含めて、各学科・コースが定める進級要件を満たさなければ、4年次へ進級できません。本学のホームページに掲載の各学科・コースのシラバスを調べるなど、出願前に工学部の授業内容を確認してください。

なお、詳細については、令和8年10月中旬頃に合格者へ「編入学生選抜合格者の単位認定について」を送付します。

また、工学部ホームページ（前年度実績）に単位認定についての記述がありますので、必要に応じて、参照してください。

○工学部ホームページ

<https://www.tobata.kyutech.ac.jp/kougaku/hennyu2025/>



8. 出願手続及び出願期間等

本学に入学を志願する者は、次の（１）～（５）により、手続きを行ってください。

（１）入学検定料の支払い

入学検定料 30,000円	郵便局に置いてある「払込取扱票（通常払込）」を必ず利用し、15ページに記載している記入例を参照のうえ、必要事項を記入した後、郵便局の窓口で納付してください。なお、振込手数料は志願者負担とします。 納付後、「振替払込請求書兼受領証（受付局日附印が押されたもの）」を必ず受け取り、コピーを入学願書に貼り付けてください。（原本は本人控えのため、大切に保管してください。） ※ 納付期間：8月21日（金）～9月4日（金） ※ 既納の検定料は、6ページの「9. 出願上の注意事項」（3）のいずれかに該当する場合を除き、いかなる理由があっても返還できません。
--------------------------------	---

※ 本学が指定する自然災害により被災された志願者のうち、入学検定料の免除を希望する者は、必ず本学ホームページを参照のうえ、出願前に免除の申請を行ってください。

○自然災害による被災学生に対する九州工業大学の取り組み
<https://www.kyutech.ac.jp/information/disaster/taiou.html>



(2) 提出書類

次に掲げる書類等を整え、提出してください。

書類名称	備考
①第3年次編入学生選抜（第2次募集）願書 (検定料納入証明書貼付用紙及び写真票を含む)	本学所定の様式に志願者本人が記入したもの。願書は2枚にわたっているため、2枚目（検定料納入証明書貼付用紙及び写真票）も必ず提出してください。 なお、願書の様式は本学ホームページからダウンロードしてください。 ※ 願書は、手書きでも入力したものを印刷してどちらでも構いません。 ※ 検定料納入証明書貼付用紙には4ページの「(1) 入学検定料の支払い」を参照して入学検定料の振替払込請求書兼受領証のコピーを、写真票には志願者本人の写真を、それぞれ貼付してください。 ○第3年次編入学生選抜ページ https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-transfer.html 
②調査書	本学所定の様式に出身学校長が作成し厳封したもの。 なお、調査書の様式は本学ホームページからダウンロードしてください。ただし、出身学校長が作成する調査書が得られない場合は、成績証明書のみをもってこれに代えることができます。 ○第3年次編入学生選抜ページ https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-transfer.html 
③成績証明書	出身学校長が作成し厳封したもの
④最終出身学校の卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書	出身学校長が作成したもの
⑤在留資格認定証明書等（ <u>外国人の志願者のみ</u> ）	在留資格認定証明書（査証手続の済んだもの）の写し、在留カードの写し、又は住民票の写し
⑥あて名票	本学所定の様式に、志願者本人が合格通知等を受け取る際の郵便番号、住所、氏名等を記入してください。 なお、あて名票の様式は本学ホームページからダウンロードしてください。 ○第3年次編入学生選抜ページ https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-transfer.html 
⑦封筒（長形3号）	本学から受験票等を送付するために、長形3号封筒（120mm×235mm）のあて名欄に、志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、320円分（特定記録）の郵便切手を貼付したものを提出してください。
⑧提出書類郵送用宛名ラベル（郵送の場合のみ）	提出書類を郵送する場合は、本学ホームページからダウンロードし、印刷したものを市販の角形2号封筒（240mm×332mm）に貼り付けてください。（持参の場合は提出不要です。） ○第3年次編入学生選抜ページ https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-transfer.html 

※ 上記以外の書類は、提出しないでください。（ただし、本学が個別に指定した場合を除く。）

※ 本選抜は、推薦選抜ではありませんので、出身学校長等による推薦書等は提出しないでください。

(3) 提出方法

市販の角形2号封筒(240mm×332mm)に、差出人(志願者)の志望学科・コース、氏名、郵便番号、住所、電話番号を記入した提出書類郵送用宛名ラベルを貼り付け、提出書類を入れて、「速達簡易書留」で郵送してください。その際に郵便窓口で受け取る「受領証」は試験終了まで大切に保管してください。

なお、提出書類が出願期間内に本学へ到着しない可能性がある場合は、下記(5)の提出先まで持参による提出も可能です。(9月4日(金)17時まで)この場合、提出書類郵送用宛名ラベルの印刷・貼り付けは不要です。また、受付時間は9時から17時まで(土・日・祝日を除く)です。

(4) 出願期間

出願期間(提出書類受付期間)は、次のとおりです。

令和8年8月28日(金)～9月4日(金) 17時必着

(5) 提出先

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号
九州工業大学大学院工学研究院事務課教務係(戸畑キャンパス)
電話 093-884-3332

9. 出願上の注意事項

- (1) 提出書類に不備がある場合は、出願を受理できないことがあります。
- (2) 受理した提出書類は、いかなる理由があっても返却できません。
- (3) 既納の入学検定料は、次のいずれかに該当する場合を除き、いかなる理由があっても返還できません。
下記のアからオのいずれかに該当する場合は、12ページ「19. 入学試験に関する問い合わせ先」へ連絡後、本学が指定する返還金請求書等をご提出いただくことで入学検定料を返還します。
ア 提出書類を郵送または持参しなかった場合
イ 提出書類の不備により出願が受理されなかった場合
ウ 本学が指定する自然災害の被災者で、入学検定料免除の手続を行った場合

○自然災害による被災学生に対する九州工業大学の取り組み
<https://www.kyutech.ac.jp/information/disaster/taiou.html>



エ 誤って二重に支払った場合
オ 高等専門学校等の国費外国人留学生で、国費外国人留学生の奨学金支給期間の延長を申請し採用され、入学後も引き続き国費外国人留学生となる場合(出願時に国費外国人留学生であることの証明書(様式任意)の提出が必要となります。)
※ 上記オの場合は、入学時に検定料を返還します。
- (4) 提出書類に虚偽の記載が認められた者は、合格発表後でも合格を取り消すことがあります。
- (5) 入学検定料を支払い、提出書類を郵送または持参した後は、提出書類の変更及び出願のやり直しは認められません。同一人物から複数の出願があった場合は、最初に受理した提出書類のみを有効とします。
- (6) 出願後、住所等を変更した場合は、速やかに12ページの「19. 入学試験に関する問い合わせ先」まで連絡してください。
- (7) 障がい等を有する志願者は、7ページの「10. 障がい等を有する入学志願者の配慮に関する事前相談」を参照のうえ、必要に応じて出願の前に必ず申し出てください。

10. 障がい等を有する入学志願者の配慮に関する事前相談

障がい（下表参照）等があり、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、下記（１）の期限までに、下記（３）の連絡先まで配慮に関する事前相談をしてください。

特に、体幹及び両上下肢の機能障害が著しく、受験上の配慮として代筆解答を希望する者は、できるだけ早い時期にご相談ください。

区分	障がいの程度
視覚障がい者 (強度の弱視者を含む。)	両眼の視力がおおむね0.3未満のものまたは視力以外の視機能障がいが高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能または著しく困難な程度のもの
聴覚障がい者 (強度の難聴者を含む。)	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能または著しく困難な程度のもの
肢体不自由者	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能または困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱者 (身体虚弱者を含む。)	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療または生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

※ 学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠

(注) 上記に該当しない場合でも、日常生活において使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験を希望する場合も、試験場設定などの対応の関係から必ず申し出てください。

※ 事前相談は障がいのある者等に本学で可能な対応についてあらかじめ双方で確認することで、受験及び修学にあたりより良い方法等を実現するために行うもので、障がいのある者等の受験や修学を制限するものではありません。

(1) 配慮に関する事前相談の期限

令和8年8月6日（木）まで

※ 上記の期限後に受験上及び修学上の配慮が必要となった場合にも、下記（３）の連絡先に必ずご相談ください。

※ 相談の内容や時期によっては、本学の試験日までに対応できず、受験上の配慮が講じられないこともありますので、できるだけ早い時期に申し出てください。

(2) 配慮に関する事前相談の方法

下記（３）の連絡先に電話した上、事前相談申請書を本学ホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上、診断書等を添付して下記（３）の送付先に郵送してください。必要な場合は、本学において、志願者自身またはその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

○障がい等を有する入学志願者の配慮に関する事前相談

<https://www.kyutech.ac.jp/examination/gs-disabilities.html>



(3) 配慮に関する事前相談の連絡先及び送付先

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号（戸畑キャンパス）

九州工業大学入試・教育接続課入試係

電話 093-884-3056

(4) 第3年次編入学生選抜における受験上の配慮の受入れ・対応実績及び主な配慮事項
(一般的な例)

区分	配慮事項
受入れ・対応実績	・面接の際、面接員の口元が見えるようにする ・受験中の補聴器の装着を許可する ・頭部に無地の黒布を着用した状態での受験を許可する ・出願登録に関する証明写真にて、布を着用した状態での写真の使用を許可する
その他一般的な例	・拡大鏡、単眼鏡、遮光眼鏡の持参使用 ・試験場への乗用車での入構及び試験室入口までの付添者の同伴 ・人工内耳の装用（FM電波等の受信機能のスイッチを切って使用する） ・松葉杖・杖の持参使用 ・車椅子の持参使用 ・試験室入口までの付添者の同伴 ・試験室における介助（扉の開閉・転倒防止・筆記用具を落とした時に拾う）を監督者等が対応

※ 下記 Web サイトより、障がいを持つ入学希望者向けの入学前相談を申し込むことができます。
ただし、この事前相談を利用した場合も必ず前ページ（1）～（3）の手続を行ってください。

○障がい学生入学前相談

<https://sog-sien.jimu.kyutech.ac.jp/nyugakumae/index.html>



1 1. 志願状況

本試験の志願状況については、令和8年9月1日（火）から本学のホームページでお知らせする予定です。

なお、これらのページの更新時刻は、毎日（土・日・祝日を除く。）19時頃の予定です。

○入試に関する重要なお知らせ

<https://www.kyutech.ac.jp/examination>



1 2. 受験票

5 ページ（2）提出書類の⑦封筒を用いて本学から受験票を送付します。9月15日（火）までに受験票が届かない場合は、速やかに12ページの「19. 入学試験に関する問い合わせ先」までご連絡ください。

1 3. 受験上の注意事項

- （1）受験の際には、本学の受験票を必ず持参してください。
- （2）必ず指定された試験日の集合時間に、指定された試験場の集合場所まで集合してください。30分以上の遅刻者は面接を受けられなくなる場合があります。
- （3）カンニング、監督者の指示に従わないこと、迷惑行為などは不正行為になります。不正行為と認められた場合は、直ちに受験を停止させ、退出を命じます。この場合、当該受験は無効とします。
- （4）試験当日において、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水痘、新型コロナウイルス感染症等）に罹患して治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがあるため受験できません。
また、受験できない場合の追試験や別室受験等の特別措置及び入学検定料の返還は行いませんので、万全の態勢で試験当日を迎えられるよう、体調管理には十分注意してください。
なお、上記の内容に変更が生じた場合は、速やかに本学ホームページにてお知らせします。

○入試に関する重要なお知らせ

<https://www.kyutech.ac.jp/examination>



14. 合格発表

日時：令和8年10月14日（水） 午前10時

本学のホームページに合格者の受験番号を掲載し、合格者に「合格通知書」等を郵送します。
なお、電話等による合否等の問い合わせには応じられません。

○入試速報

<https://www.kyutech.ac.jp/successful>



(注) 合格通知書等の氏名について、コンピュータで表記できない文字は、文字が置き換えられるか、カタカナ等で表記されますので、ご了承ください。

(例) 吉 → 吉 廣 → 廣 角 → 角

15. 入学手続

合格者には、合格通知書送付時に第一次入学手続に必要な書類を同封しますので、令和8年11月6日（金）17時【必着】までに下記の提出先に「速達簡易書留もしくはレターパック」にて郵送してください。期間内に手続を行わない者は、編入学生選抜合格者としての権利を消失します。

※ 入学手続は2段階に分けて行います。第二次手続期間等は、令和9年1月下旬に郵送する入学手続書類でお知らせする予定です。

・提出先

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

九州工業大学大学院工学研究院事務課教務係（戸畑キャンパス）

電話 093-884-3332

16. 入学手続時の納付金

- ・入学料 282,000 円（予定額）
- ・諸納金（後援会費，責善会費，明専会費，学生教育研究災害傷害保険料）52,750 円（予定額）

（1）既納の入学料は，次のいずれかに該当する場合を除き，いかなる理由があっても返還できません。

- ア 入学手続をしなかった場合
- イ 誤って二重に支払った場合

（2）入学手続を完了した者が，令和9年3月31日（水）までに入学を辞退した場合には，申し出により既納の諸納金相当額を返還します。ただし，既納の入学料はいかなる理由があっても返還できません。

（3）授業料〔前期分・後期分とも各 267,900 円（予定額）〕の支払は，入学手続時に申請していただく銀行口座から「振替による自動引落」にて行います。（前期は令和9年4月，後期は令和9年10月の予定）

（4）授業料等の改定が行われた場合には，改定時から新授業料等が適用されます。

（5）本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受けています。

本制度による支援を希望する場合は，審査結果が出るまでの期間，入学料及び授業料の納付は猶予されます。詳細については，入学手続書類でお知らせします。

◆高等教育の修学支援新制度（多子世帯の授業料等無償化を含む）

この制度は，意欲ある子どもたちの進学を支援するため，世帯の家計の状況に応じて，入学料及び授業料の免除と，返還を要しない給付奨学金を支給するもので，大学等における修学の支援に関する法律に基づき実施されます。2025年4月からは，多子世帯であれば，給付奨学金の支給は家計の状況によりますが，入学料及び授業料は家計の状況によらず全額免除となるよう制度が改正されました。

応募資格等制度の詳細は，文部科学省高等教育の修学支援新制度ホームページ及び日本学生支援機構給付奨学金ホームページをご確認ください。

○文部科学省ホームページ

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>



○日本学生支援機構ホームページ（給付奨学金）

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>



【注意】多子世帯の授業料等免除申請者も，給付奨学金受給希望の有無にかかわらず，全員本制度に申請する必要があります

◆奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金には，上記「高等教育の修学支援新制度」による給付奨学金の他に，貸与奨学金があり，学力や家計状況等により選考が行われます。

応募資格や貸与月額等の詳細は，日本学生支援機構ホームページをご確認ください。

○日本学生支援機構ホームページ（貸与奨学金）

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/seido/index.html>



なお，日本学生支援機構の奨学金の他に，地方公共団体などの奨学金もあります。

本学において実績のある奨学事業団体は，本学公式ホームページをご確認ください。

○九州工業大学ホームページ（各種奨学金）

<https://www.kyutech.ac.jp/campuslife/scholarship.html>



高等教育の修学支援制度による入学料・授業料免除制度，奨学金制度等に関する問い合わせ先

担当窓口：学生支援課学生生活支援係 電話 093-884-3050

17. 入学試験成績の開示

令和9年度第3年次編入学生選抜に係る受験者の個人成績を、下記のとおり開示します。

区分	内容・方法等
開示対象	入学試験成績
開示内容	入学試験成績 総合点及び募集単位の合格者最低点
申込期間	令和9年5月6日（木）から令和9年5月31日（月）【必着】まで。 ただし、土・日は除きます。
請求者	受験者本人に限ります。（代理人による申し込みは認められません。）
申込方法	本学所定の申込様式を、ホームページ（令和9年4月下旬掲載予定）で入手し、九州工業大学受験票及び切手を貼った返信用封筒（長形3号120mm×235mm）を添付のうえ、郵送で申し込んでください。令和9年5月31日（月）17時までに到着したものに限り受理します。 ○入試に関する重要なお知らせ https://www.kyutech.ac.jp/examination/ 
開示方法	受付から約20日以内に、受験者本人へ簡易書留郵便で郵送します。
その他	令和8年度以前の入学者選抜に係る個人成績は開示しません。

※ 入試成績情報の開示に関する詳細については、入試・教育接続課入試係（電話：093-884-3056）に問い合わせてください。

18. 個人情報の取扱い

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報および入学手続時に提出していただく書類に記載されているすべての個人情報は、本学における次の業務に利用します。

- （1）入学者選抜および入学手続に関する業務。
- （2）教務関係（学籍管理、修学指導および教育課程の改善等）に関する業務。
- （3）学生支援関係（健康管理、入学料免除、授業料免除、入学料徴収猶予、奨学金および就職支援等）に関する業務。
- （4）入学者選抜および大学教育の改善に関する調査・研究に関する業務。ただし、調査・研究結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- （5）その他、個人が特定できない形式で行う統計に関する業務。

※ 一部の業務については、本学より委託を受けた外部の業者において行うことがあります。

※ 取得した個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人九州工業大学個人情報の保護に関する規則」に基づき、適切に取り扱います。

19. 入学試験に関する問い合わせ先

工学部の編入学生選抜に関する照会については、月曜日から金曜日（ただし、祝日を除く。）の8時30分から17時15分までの間に、下記に問い合わせてください。

<問い合わせ先>

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

九州工業大学大学院工学研究院事務課教務係（戸畑キャンパス）

電話 093-884-3332

※不測の事態発生時等における諸連絡

災害など不測の事態が発生し、入学試験を予定どおりに実施できない場合の対応については、本学のホームページ等により周知しますので、注意してください。

また、不測の事態等（大規模な災害・交通機関の遅延等）により受験できない恐れのある者は、上記の問い合わせ先に連絡してください。

○入試速報

<https://www.kyutech.ac.jp/successful>



20. 安全保障輸出管理

九州工業大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「九州工業大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生等の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。

規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

なお、詳細については、下記のホームページを参照してください。

○九州工業大学安全保障輸出管理

<https://www.kyutech.ac.jp/exchange/anpo.html>



21. ノートパソコンの必携

九州工業大学では、非常に多くの授業でパソコンを用いた演習が行われており、演習以外でも電子データでの教材配布やレポート提出などパソコンの利用が必須となっています。このことから、本学に入学するすべての学生を対象にノートパソコンの必携化を実施し、入学までに準備いただく各個人所有のノートパソコンを大学や自宅での学修に利用していただきます。本学ホームページで詳細をご確認のうえ、ご準備ください。

なお、本制度に伴う経済的支援についても本学ホームページに掲載しています。

○ノートパソコンの必携化のおしらせ

https://www.kyutech.ac.jp/student-cheer/kyutech_byod.html



22. キャンパス全面禁煙

九州工業大学では、学生並びに教職員の疾病予防、健康の維持・増進、さらには快適な学習・職場環境づくりを推進していくために、全キャンパスを全面禁煙としています。なお、詳細については、下記のホームページを参照してください。

○キャンパス全面禁煙宣言

<https://www.kyutech.ac.jp/information/nonsmoking.html>



23. 工学部のアドミッションポリシー

工 学 部

工学部は大学開学以来の学部で、110年を超える歴史をもちます。建学の精神である「技術に堪能なる士君子」、安川敬一郎氏の「鍊心壯膽（胆）」に象徴される理念が今も伝統として残るとともに、その精神は工学部の専門教育の中で知識と技術の修得とともに育まれてきました。

工学部では大学全体の入学者受入方針に加え、110年を超える歴史と伝統に基づく「ものづくり」をキーワードとして、建設社会工学科、機械知能工学科、宇宙システム工学科、電気電子工学科、応用化学科、マテリアル工学科の6学科それぞれの分野において、高度な専門技術を身につけた人材を養成します。

工学は各専門領域の工学体系において、より効率的に、快適に、高度利用することをめざした学問です。工学部は、これからの地球や生活環境に調和した技術を創出し、社会に貢献する人を世に送り出すために、幅広い教養、豊かな人間性、技術者としての高い倫理観、そしてグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力を備えた技術者の育成をめざしています。

【求める学生】

工学部が入学時点で入学者にもってほしいと期待する素養や能力は以下のとおりです。

- (1) 数学、理科（物理・化学）を学ぶことが好きで、それらの基礎学力をもつ人
- (2) ものづくりに興味があり、工学における高度で幅広い知識を修得する意欲と工学にかかわる問題の解決に情熱をもって取り組める人
- (3) 自己の向上をめざすさまざまな活動に主体的に参加して、多様な知識を吸収し、自信に満ちた意思を伝えることができる人
- (4) ものづくりやシステムの構築に協働して取り組むことを好み、最後までやりとげる意欲をもつ人

【第3年次編入学生選抜による受け入れ】

本学部での授業内容を理解するために、高等専門学校もしくは短期大学の理工系学科等において数学と工学基礎・専門科目を特に学んでおくことを望みます。3年次からの工学専門教育の勉学に必要な基礎学力を備えるとともに、工業高等専門学校を卒業もしくは短期大学の理工系学科等を卒業後、更に高度な工学に関する専門性を身につけることを志す意欲的な学生を受け入れるために、以下の選抜を実施します。

一般選抜

調査書により(1)、(2)を、面接（基礎学力及び専門に対する適性等に関する口頭試問を含む。）によって(1)、(2)、(3)、(4)を評価します。

(学科別の育成目標)

工学部入学者受入方針に加え、特に次のような人材を育成します。

建設社会工学科

「豊かな生活空間の創造」、「災害に強い社会基盤の建設及び維持管理」に関する知識・技術を習得し、安心と豊かさを実感できる国土、及び安全快適で環境と調和した社会基盤施設や建築物をつくれる、人間性豊かな専門技術者を養成します。

機械知能工学科

身の回りで起こる様々な自然現象を支配する原理や力学法則を理解し、その知識を活用して人類の幸福や自然との共生に役立つ「もの」をつくることができ、広い視野を持って時代の変化に柔軟に対応できる能力を備えた技術者の育成と複雑な工学システムの創成，研究開発，製造，運用を担える高度技術者の育成をめざしています。

宇宙システム工学科

宇宙利用を意識して機械工学分野，電気・電子工学分野に立脚した専門知識・理解，独創性豊かな研究・開発のための基盤となる学力を修得させることで，宇宙システムに代表される複雑な工学システムの創生，研究開発，運用を担える専門技術者・研究者を養成します。

電気電子工学科

電力，電気電子材料，電子・情報機器及びそれらを結ぶ情報通信技術を含む幅広い知識と技術を修得し，電気電子に関連した技術を利用する全ての産業・社会分野において，環境調和型社会の形成に貢献するため，次世代のエネルギー，デバイス及び電子システム化技術に通じた専門技術者を養成します。

応用化学科

高度な機能を有する物質の設計と合成，材料の創製，及びこれらにかかわる高度生産技術の開発を通じて，先端技術の根幹を支える「応用化学」の基本を習得し，環境循環型未来社会に貢献できる専門技術者を養成します。

マテリアル工学科

鉄鋼，合金，半導体，セラミックス，複合材料等「もの」の性能を決定するマテリアルの構造と性質を科学的に解明し，新しいマテリアルを設計・製造して応用展開する基盤技術，並びに高度な「ものづくり」を実現する金属加工技術の根幹を成す学問領域として，これらの材料の開発・加工・利用とともに，資源，リサイクル及びエネルギー問題にも取り組むことができる専門技術者を養成します。

◆ 入学検定料の払込取扱票（記入例等）

入学検定料の納付に必要となる「払込取扱票」の記入例を参照のうえ、各自で必要事項を記入してください。

なお、「払込取扱票」は郵便局に置いてあるものを必ず利用し、振込手数料は志願者負担とします。

記入例

払 込 取 扱 票		振替払込請求書兼受領証	
00	口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。		
① 01710-9-77831	金額 ③ ￥30000	① 01710-9-77831	
② 国立大学法人九州工業大学	料 金	② 国立大学法人九州工業大学	
④ 令和9年度 工学部 編入学生選抜（第2次）検定料	備考	⑤ 九工大 太郎	
⑤ ***-**** **県**市**区****	日 附 印	（消費税込み）	日 附 印
九工大 太郎		料 金	円
（ご連絡先電話番号 ** - ** - ****）		備考	

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。
ご依頼人欄に、おとこ・おなまえをご記入ください。
これより下部には何も記入しないでください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないでください。

この受領証は、大切に保管してください。

①口座番号	01710-9-77831
②加入者名	国立大学法人九州工業大学
③金額	30,000 円 ※振込手数料は志願者負担
④通信欄	令和9年度 工学部 編入学生選抜（第2次）検定料
⑤ご依頼人	志願者住所、氏名、電話番号を記入

注意点

- ・「振替払込請求書兼受領証」の原本は大切に保管してください。（大学には出願時にコピーを入学願書に貼り付けて提出）
- ・郵便局の窓口にて「払込取扱票」で必ず納付してください。ゆうちょ銀行またはATM、他行からの「振替」は、記載事項が把握できないため利用しないでください。

◆各種の資格等

【工学部】

卒業後、該当学科については次のような資格を得ることができます。

※法改正等により、一部条件に変更が生じる場合があります。

種 類	該 当 学 科	備 考
高等学校教諭 一種免許状（工業）	建設社会工学科 機械知能工学科 電気電子工学科 応用化学科 マテリアル工学科	本学には教職課程が設置されており、教育職員免許法に定める所定の単位を修得すれば、免許状を取得することができます。 編入学生で免許状を取得しようとする者は、通常の場合2年間で、必要な科目の単位を修得することになるので、入学後のなるべく早い時期に履修計画を立てることが必要です。 なお、編入学時に認定された単位が、免許状取得に必要な科目の単位としては認められないことがあるので注意してください。
技術士	建設社会工学科 機械知能工学科 電気電子工学科 応用化学科 マテリアル工学科	JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けた教育プログラムを修了した者は第一次試験が免除され、「修習技術者」となることができます。（JABEEの認定を継続するか検討中です。入学後に確認してください。）
一級建築士	建設社会工学科	所定の単位を修得した者は、受験資格を取得できます。
測量士	建設社会工学科	測量に関する科目の単位を修得し、卒業後1年以上の実務経験の後、資格を取得できます。
二級・木造建築士	建設社会工学科	所定の単位を修得した者は、受験資格を取得できます。
電気主任技術者	電気電子工学科 （電気エネルギー工学コース）	所定の科目の単位を修得し、卒業後5年以上の実務経験の後、資格を取得できます。
第一級陸上無線技士	電気電子工学科 （電子システム工学コース）	所定の科目の単位を修得すれば、受験科目のうち「無線工学の基礎」が免除されます。
電気通信主任技術者	電気電子工学科	所定の科目の単位を修得すれば、試験の一部が免除されます。
第一級陸上特殊無線技士	電気電子工学科 （電子システム工学コース）	所定の科目の単位を修得すれば、申請により資格を取得できます。
第三級海上特殊無線技士	電気電子工学科 （電子システム工学コース）	所定の科目の単位を修得すれば、申請により資格を取得できます。
甲種危険物取扱者	応用化学科 マテリアル工学科	試験の受験資格が取得できます。

◆大学院

本学には、大学を卒業したのち、さらに深く専門分野について研究しようとする者のために、大学院が設けられています。大学院の課程は、博士前期課程(修業年限2年)及び博士後期課程(修業年限3年)です。

◆厚生施設

大学構内にはキャンパス毎に、学生及び教職員の福利厚生の増進を図ることを目的とした施設があります。食堂、売店(書籍、文房具等)等

◆学生の国際交流

九州工業大学はグローバルな学生をバックアップします。

国際交流

本学では、29カ国・地域、129大学・機関(2026年2月28日現在)との間で協定を締結し、国際交流を積極的に推進しています。

国際交流協定校への1年以内の交換留学制度があり、本学に授業料を納付することで、留学先の大学では授業料が免除されます。交換留学に関わる出発前の手続き、危機管理情報の提供、留学中の相談など、本学が派遣学生を全面的にバックアップします。

交換留学以外に、多くの協定校との交流を活用した、本学独自のさまざまな海外派遣プログラムを提供しています。(独)日本学生支援機構による海外留学支援制度も積極的に活用し、経費の一部を補助しています。海外派遣プログラムでは、海外での安全教育を含む、事前・事後学習を行っており、教育効果をさらに高める工夫を行っています(下記「学生の海外留学」参照)。

2013年4月から、本学の協定校であるマレーシアプトラ大学キャンパス内に、海外教育研究拠点(MSSC)を設置しました。MSSCを活用した学生派遣プログラムや、マレーシアの企業で研修を行なう国際インターンシップの実施等、学生のグローバル化を一層推進するとともに、マレーシア渡航学生をバックアップしています。

学生の海外留学

本学はグローバル化が加速する社会で活躍できる技術者(グローバル・エンジニア)に必要な能力(要素)をグローバル・コンピテンシーと定義し、グローバル・エンジニアを育成するために、在学中の海外での学習経験を推奨しています。在学中の海外での学習経験をより効果的なものとするために、以下の取り組みを実施し、学生の海外留学を支援しています。2024年度は、全学で32カ国・地域470名が海外に派遣されました。本学では、フランスを始めとする協定校への交換留学やダブルディグリーのような長期留学だけでなく、マレーシア・台湾・タイなどでの異文化体験プログラム、語学研修、アントレプレナーシップ研修のような短期の九工大企画留学プログラムが充実しています。異文化の中で語学力・専門性・実践力を育む環境を整備しており、国際社会で活躍できる技術者育成を目指しています。

- ・ 海外での学習経験を効果的にするために、留学前後で事前・事後学習を実施

実際に海外留学される前に、異文化適応の測定として簡単なテストの実施、海外で安全に過ごすための事前学習、さらに渡航国の文化の勉強やグループ演習等を行っています。また、海外留学後、期間中の経験や学習内容を比較する振り返りを実施し、留学前後の変化や今後の学生生活の目標等を発信する場として成果報告会を実施しています。

- ・ 目標に沿った海外留学

海外留学の目的は学生によって様々です。語学力向上や海外での研究、海外の日本企業へのインターンシップなど、本学では学生の目的に応じて、適切な留学メニューを学生に提供しています。

- ・ 奨学金支給

本学では、渡航地域に応じた奨学金支給を行っています。

その他、様々な支援を行っています。詳細は各キャンパスの学生係にお問い合わせください。

国際研修館【工学部】

国際的に活躍できる技術者になるためには、高い専門性に加え、実践的な英語力を伴った国際感覚と幅広い視野を持つ必要があります。本学では、国際的に通用するリーダーを育成するために、日本人学生と留学生が混住する国際研修館を設け、教育プログラムを実施しています。

ランゲッジ・ラウンジ【工学部】

本学では、国際的なコミュニケーション能力を高める取り組みとして、国際経験の豊富な専門のスタッフによるサポートを充実させ、日本人学生と留学生が相互に交流できるランゲッジ・ラウンジを戸畑キャンパスに設置しています。

◆令和7年3月 九州工業大学 卒業者（学部）進路状況

(R7.5.1現在)

※ 各欄の上段（ ）内数字は、女子で内数

学部	学 科 等 設 置	建 設 業	製 造 業						電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	情 報 通 信 業	運 輸 業 、 郵 便 業	卸 売 業、業		不 動 産 取 引 ・ 賃 貸 ・ 管 理 業	専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	教 育 、 学 習 支 援 業	サ ー ビ ス 業	国 家 公 務 員 業	地 方 公 務 員 業	左 記 以 外	就 職 者 合 計	就 職 率	大 学 院 進 学 者	専 門 学 校 等 入 学 者	そ の 他	合 計
			化 学 工 業 ・ 石 油 ・ 石 炭 製 品 製 造 業	鉄 鋼 業 ・ 非 鉄 金 属 ・ 金 属 製 品 製 造 業	はん 用 ・ 生 産 用 ・ 業 務 用 機 械 器 具 製 造 業	電 子 部 品 ・ デ バ イ ス ・ 電 子 回 路 製 造 業	電 気 ・ 情 報 通 信 機 械 器 具 製 造 業	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業				卸 小 売	業 小 売													
工 学 部	建設社会工学科	建 築 学 コ ー ス	(2) 3												1				1		(2) 5	100.0	(10) 16			(12) 21
		国 土 デ ザ イ ン コ ー ス	(3) 10								(1) 1				(2) 6		(1) 1		(3) 6		(10) 25	100.0	(6) 29	1	(1) 1	(17) 56
		計	(5) 13	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(2) 7	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(3) 7	(0) 0	(12) 30	100.0	(16) 45	(0) 1	(1) 1	(29) 77
	機械知能工学科	知 能 制 御 工 学 コ ー ス		1		2	2		2		(1) 3	1		1	1			1			(1) 14	100.0	(4) 39		1	(5) 54
		機 械 工 学 コ ー ス	(1) 1		1	2	2	6		2	2						1				(1) 17	100.0	(5) 55			(6) 72
		計	(0) 0	(1) 2	(0) 0	(0) 3	(0) 4	(0) 2	(0) 8	(0) 0	(1) 5	(0) 3	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 31	100.0	(9) 94	(0) 0	(0) 1	(11) 126
	宇宙システム工学科	機 械 宇 宙 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス			1	1			(1) 2		2									2	(1) 8	100.0	(2) 27			(3) 35
		電 気 宇 宙 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	(1) 1	1					1		2	1				1	1				(1) 8	100.0			1	(1) 21
		計	(0) 0	(1) 1	(0) 2	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(1) 3	(0) 0	(0) 4	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(2) 16	100.0	(2) 39	(0) 0	(0) 1	(4) 56
	電気電子工学科	電 気 エ ネ ル ギ ー 工 学 コ ー ス				1		2	3	1	3							1			(2) 11	100.0	(1) 32		1	(3) 44
		電 子 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス				(1) 1		(1) 3	(1) 2												(3) 10	100.0	(4) 45		2	(7) 57
		計	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 2	(0) 3	(1) 3	(1) 5	(0) 1	(2) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(5) 21	100.0	(5) 77	(0) 0	(0) 3	(10) 101
	応 用 化 学 科				(3) 3	(1) 2			(1) 2	(1) 1	(1) 1		(1) 1				(1) 1			1	(9) 18	100.0	(7) 51			(16) 69
	マ テ リ ア ル 工 学 科		1																		(0) 7	100.0	(7) 46			(7) 53
	工 学 部 計		(5) 14	(2) 6	(3) 9	(2) 8	(0) 9	(1) 5	(3) 20	(1) 2	(4) 16	(1) 4	(1) 2	(0) 1	(0) 2	(2) 8	(0) 1	(2) 5	(0) 1	(3) 8	(0) 2	(30) 123	100.0	(46) 352	(0) 1	(1) 6

※ 「就職率」の欄は、就職希望者に占める就職者の割合。

※ 「専門学校等入学」の欄には、大学に学士入学・編入学する者や研究生として入学する者等も含む。

※ 「その他」の欄には、公務員・教員希望者、進学希望者、留学生で母国に帰国する者等を含む。

※ 旧コースの人数は、該当する新コース分野の人数を含む。

◆学部の案内

工学部

工学部がある戸畑キャンパスは、JR鹿児島本線九州工大前駅（小倉駅より5分）から徒歩8分というアクセスの良い所にあります。レンガ造りの正門を入り、庭園のようなたたずまいの中を進むと、木立の間に学舎が見えてきます。国立大学の中でも有数の緑あふれる恵まれた環境の中で、明日の夢に情熱を燃やす約3,000名の若者が学んでいます。

工学部は、建設社会工学科、機械知能工学科、宇宙システム工学科、電気電子工学科、応用化学科及びマテリアル工学科の6学科10コースで構成され、「ものづくり」を通じて人類・社会に貢献できる、課題解決能力を備えた技術者の養成を目指しています。

また、大学院工学府博士前期課程には、卒業生の過半数が進学して勉強し、その後、後期課程に進学する修了生もいます。

建設社会工学科	
建設社会工学科では、土木や建築などの複数の建設系工学分野に関する幅広い基礎学力と十分な専門知識を有し、安全で豊かなまちづくりに貢献できる人材を育成します。本学科は、以下の2つのコースで構成されています。 卒業後の進路は、建設会社、建設コンサルタント、建築設計事務所、鉄鋼・建材・住宅メーカー、上級技術者としての国家・地方公務員、鉄道、高速道路、電力、通信、ガス、水道などの社会インフラ系企業などです。卒業生はこれらの業種において指導的役割を担う人材として期待されています。 また、卒業生の約半数は高度化する技術に対応するため大学院に進学しています。	
建築学コース	豊かな生活空間を創造するための建築・都市空間に対する計画やデザイン、及び安全で快適な建築物を実現するための構造設計、建築設備や建築施工などの技術について学びます。
国土デザインコース	社会基盤施設に関するもの創りをベースとして、安全で潤いのある生活空間を提供するための環境デザイン技術とともに、自然災害に対する防災システムや都市創造のための建設システムに関する技術について学びます。

機 械 知 能 工 学 科	
本学科は、計測、制御、情報機器を合体して機械の知的円滑動作を可能にする制御工学と自然現象を理解・解明して人間生活に役立たせるための機械を使って動かす機械工学の二つで構成されています。	
知能制御工学コース	制御工学は、車両、ロボット、産業設備、宇宙ステーション、磁気浮上システム、家電製品、医療・福祉機器などのさまざまなものを、人の望むとおりに動かすための知能制御技術を追求する学問です。 知能制御工学コースでは、多様な技術を総合的・横断的に取り扱えるメカトロニクス制御技術者として活躍のできる人材の養成を目標とし、体系化された制御理論をはじめとして、計測システム、情報処理システム及び駆動システムを学びます。さらに関連分野として、機械工学、情報工学、電気工学及び電子工学などの基礎科目も学びます。 本コースの卒業生は、半数以上が大学院に進学しており、自動車、電気・電子、鉄鋼・金属、繊維・化学、コンピュータ、電力など幅広い分野で活躍しています。
機械工学コース	今日、環境に配慮し自然との共生を考えた人間社会に役立つ技術の研究・開発が求められています。機械工学コースでは、自然科学の先端を理解・開拓して、工業技術の先端化の中心的役割を担える機械技術者の養成を目的とした教育を行います。このため、「ものづくり」の基礎としての力学体系を中心とした機械工学の基礎科目や専門科目を履修するとともに、生産工学、設計生産情報処理、機械要素などの工業技術に習熟し、さらに物理・数学系や数理情報基礎科目を履修できるカリキュラムとなっています。 本コースの卒業生は、あらゆる業種に対応できる技術者として企業から高く評価されており、自動車、重工業、鉄鋼、化学工業、宇宙開発、精密機器、電気等々の分野に進み、指導的な役割を担うものと期待されています。また、多くの者は高度化する技術に対応できるよう大学院に進学しています。

宇 宙 シ ス テ ム 工 学 科	
宇宙システム工学科では、人類のフロンティアの拡大や産業振興並びに国際社会への発展に貢献できる、グローバルな視野をもった宇宙開発利用を可能にする宇宙システム工学に関する専門教育を行います。	
機械宇宙システム工学コース	材料力学・熱力学・流体力学・機械力学・機械材料といった機械工学に関する基礎教育を行った上で、PBL（課題解決型学習）を通じたシステム工学・プロジェクトマネジメント並びに、宇宙利用・宇宙材料・宇宙環境・軌道力学・推進・通信・流体・熱構造・誘導制御・電子回路・電子物性といった各種要素技術に関する教育を行います。 本学科の卒業生はロケットメーカ、衛星メーカ、部品メーカなどの宇宙機器産業、宇宙利用産業、自動車、航空機、鉄道、造船、家電、社会インフラなどの複雑なシステムを扱う会社、宇宙航空研究開発機構（JAXA）や研究機関、公務員としての活躍が期待されます。また、大学院へ進学し更に高度な専門技術者・研究者への道が開かれています。
電気宇宙システム工学コース	電気回路・電磁気学・電子回路・半導体・電気電子材料といった電気工学に関する基礎教育を行った上で、PBL（課題解決型学習）を通じたシステム工学・プロジェクトマネジメント並びに、宇宙利用・宇宙材料・宇宙環境・軌道力学・推進・通信・流体・熱構造・誘導制御・電子回路・電子物性といった各種要素技術に関する教育を行います。 本学科の卒業生はロケットメーカ、衛星メーカ、部品メーカなどの宇宙機器産業、宇宙利用産業、自動車、航空機、鉄道、造船、家電、社会インフラなどの複雑なシステムを扱う会社、宇宙航空研究開発機構（JAXA）や研究機関、公務員としての活躍が期待されます。また、大学院へ進学し更に高度な専門技術者・研究者への道が開かれています。

電 気 電 子 工 学 科

電気電子工学科は次世代のエネルギー、電子デバイス、電子システム化技術に通じた技術者の養成によって、社会をより豊かにすることを教育の目的としています。幅広い電気電子工学の分野を見渡せる基礎力と、自分の専門とする分野で活躍できるより高度な専門力を身につけるため、本学科では、電気エネルギー工学コースと電子システム工学コースの2コースで構成され、一貫して基礎に重点をおいた教育を行っています。学部3年生からはそれら2コースに分かれてより専門的な学習を行います。この教育体系により、高い問題解決能力と幅広い視野を育み、世界の第一線で活躍する多くの卒業生を輩出しています。

電気エネルギー工学コース

電気エネルギーは、産業と生活の根幹を支えている重要なものであって、それなくしては我々の生活がなりたないものになっています。また、エレクトロニクス化・情報化は、生活を便利で豊かなものにしており、それを支えるものが集積回路（LSI）やパワーデバイス半導体など半導体技術です。電気エネルギー工学コースでは、これらの根幹を支えている電気エネルギーをいかに効率的に発生し利用するかについて、電力制御・送配電ネットワーク制御に関する技術、また、半導体デバイス作製プロセスの高度化、新しい機能性材料の開発やパワー半導体の開発と応用などの半導体技術を、演習・実験を重要視したカリキュラムによって実践的に身につけます。

電子システム工学コース

デジタルテレビ、スマートフォン、ゲーム機、さらに自動車にまで、コンピュータ、システムLSI、センサ・アクチュエータとソフトウェアを有機的に組み込んだ電子システムが身の回りに溢れており、これらがスマートフォンやインターネットなどに代表される通信システムによって結ばれることで、我々の生活はますます便利で豊かになっています。電子システム工学コースでは、社会を支えるこれらの機器およびシステムを設計・構築するために必要な、電子回路設計、画像・音声などの信号処理、無線・光通信・ネットワークなどの幅広い技術を、演習や実験科目を組み合わせたカリキュラムによって実践的に身につけます。

応 用 化 学 科

応用化学科では、「技術に堪能なる士君子」という本学の基本教育理念に基づき、多様な技術に総合的・横断的に対応できる化学系技術者・研究者の育成を行っています。化学の骨格を形成する有機化学、無機化学、物理化学、化学工学の各基礎教育分野に対してバランスのとれたカリキュラムを整備し、博士前期課程教育との連携を考慮して効率的な化学系育成プログラムを構築しています。また、各種地域貢献事業を通じた人材育成教育によって北九州工業地帯の環境・エネルギー・ナノテク・情報システム・バイオ・ケミカルエンジニアリング等の多様な先端産業技術の基礎を支えています。

卒業生の6割以上は、大学院に進学し、最先端分野で活躍できる高度化学専門技術者として活躍しています。学部生の就職先も、総合化学工業、食品、環境・エネルギー・IT関連、電気・電子機械工業、自動車、鉄鋼、非鉄、半導体、精密機器など多岐に渡り高い評価を得ています。

マ テ リ ア ル 工 学 科

マテリアル工学はあらゆる産業の基幹技術であり、新しいマテリアルの開発によってさまざまな技術開発や産業革新がもたらされるため、人類の幸福と産業の活性化にとって必要不可欠な学問領域です。

マテリアル工学科では、数学、物理、化学及び情報などを基盤として、金属、半導体及びセラミックスなどのマテリアルの構造・性質をナノスケールで調べ、新規金属材料やセラミックスの持つべき機能を設計し、安全な製品の効率のよい生産及びリサイクル利用のためのプロセスを学び研究します。また、「計算材料学Ⅰ・Ⅱ」「マテリアル基礎実験」「マテリアル工学PBL」などの科目群も準備し、マテリアル工学の実践・応用までを体系化したカリキュラムを編成しています。

本学科の卒業生の多くは大学院へ進学しています。また、基礎学力、応用力、創造性、さらに行動力や協調性を身に付けた卒業生は鉄鋼、非鉄（アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅など）、半導体、セラミックス工業、自動車、精密機械、重工業、電気・電子機械工業など広範囲の分野において技術者・研究者として活躍しています。

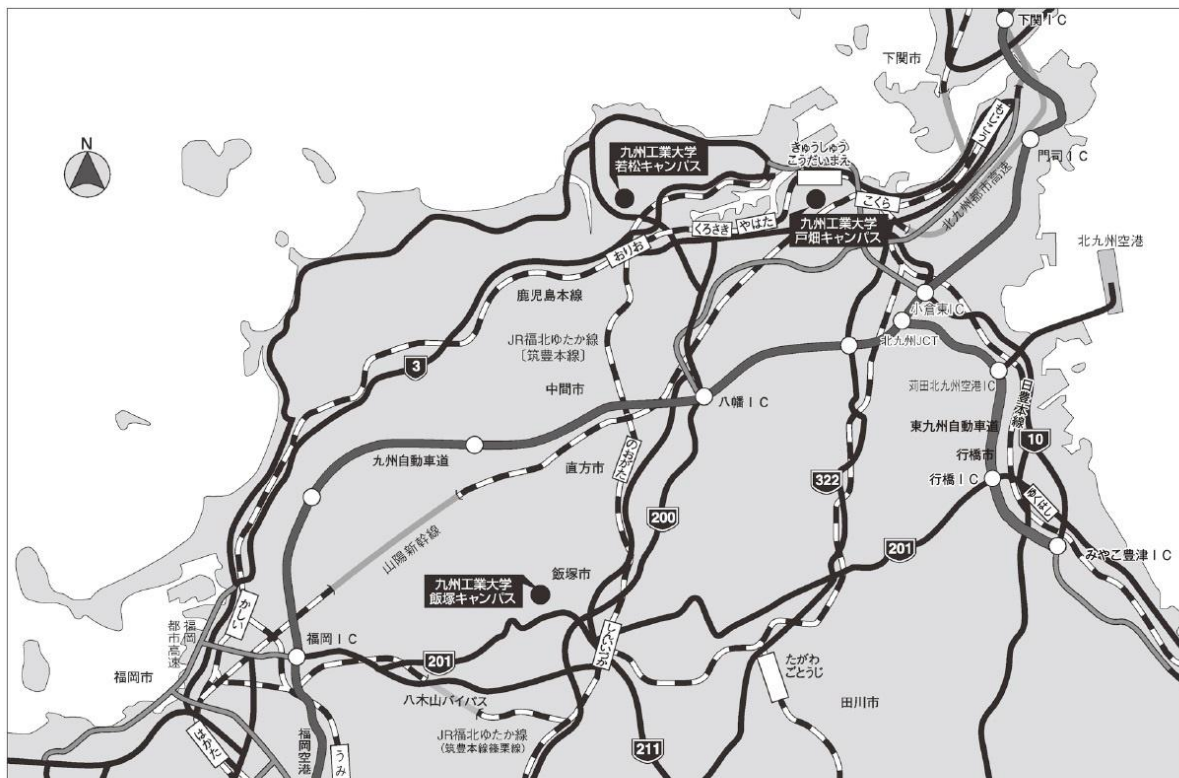
◆過去の編入学生選抜実施状況

年度 募集人員等 学部・学科		令和7年度					令和8年度				
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
工学部	建設社会工学科	1	1 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	1	0 (3)	0 (3)	0 (1)	0 (1)
	機械知能工学科	7	10	10	7	7	7	15	15	8	8
	宇宙システム工学科	2	17	17	3	2	2	6	6	3	2
	電気電子工学科	8	9 (6)	9 (5)	6 (1)	6 (1)	8	11	10	8	8
	応用化学科	1	3	2	1	1	1	2	2	1	1
	マテリアル工学科	1	1	1	1	1	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計		20	41 (8)	39 (7)	18 (2)	17 (2)	20	34 (3)	33 (3)	20 (1)	19 (1)

※第2次募集の実施状況を（ ）外数で表示しています。

※令和7年度及び令和8年度の第2次募集は調査書及び面接の結果を総合して選考を実施しています。

◆九州工業大学の所在地



TOBATA

工学部（戸畑キャンパス）



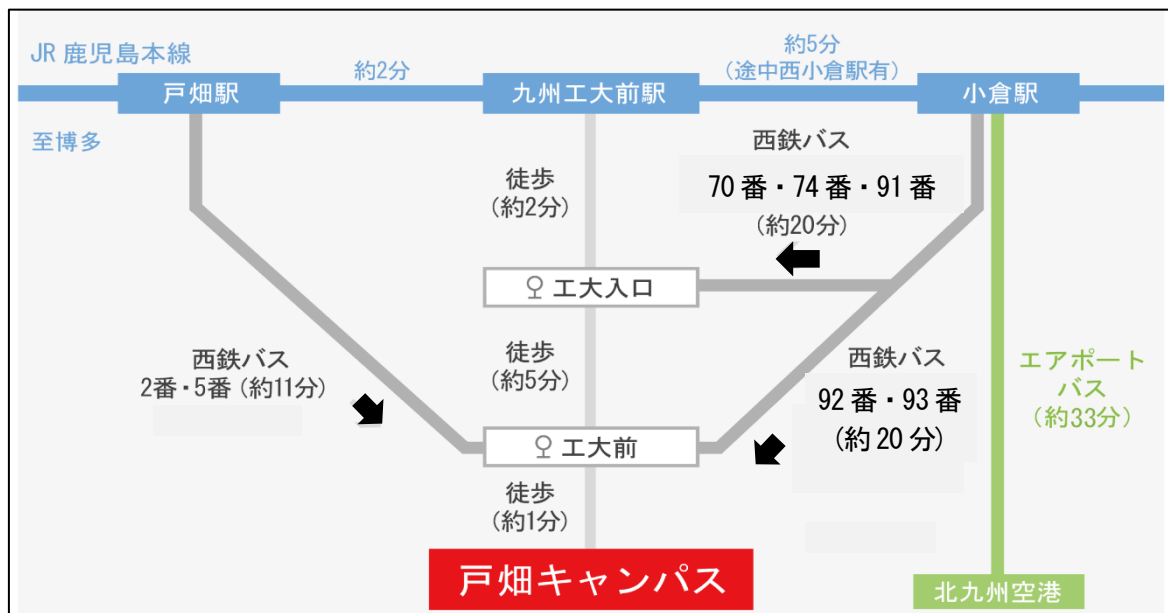
●所在／福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

◆試験場までのアクセス

九州工業大学工学部（戸畑キャンパス）

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号（戸畑キャンパス）

【交通のご案内】



【キャンパスマップ】



◆令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）の変更点〔予告〕

九州工業大学では、令和8年度改組に伴い、令和10年度 工学部第3年次編入学生選抜を下記のとおり変更します。

1) 募集人員及び出願形式

学科	募集人員	コース	受入目安	出願形式	
				推薦	一般
工 学 科	20 名	建築	2～3 名 ※1	○	—
		土木			
		機械	4～5 名 ※2	○ (3～4 名)	○
		制御	2～3 名	○	—
		宇宙	2～3 名	○	—
		電気	7～8 名 ※1	○	—
		電子			
		化学	1～2 名 ※2	○	○
		材料	1～2 名	○	—

※1 受入目安は建築及び土木コース、電気及び電子コースの合計です。

※2 受入目安は推薦と一般の合計です。

※ 1 人の志願者が本学に出願できるのは1学部のみです。

※ 出願資格は出願形式によって異なります。

※ 合格者数が募集人員に満たない場合は、第2次募集を行うことがあります。

※ 数物コースは募集しません。

2) 口頭試問の出題範囲

工学部の面接における口頭試問の出題範囲は、以下のとおりです。

なお、工学専門の出題範囲にはそれぞれの工学専門に必要な数学・理科の内容を含みます。

学科	コース	出題範囲	
工学科	建築 土木	工学専門	建築または土木に関する基礎知識
	機械	工学専門	材料力学, 機械力学, 熱力学, 流体力学, 加工学
	制御	数学	線形代数, 解析 (微分・積分), ラプラス変換
		工学専門	計測制御工学
	宇宙	数学	線形代数, 幾何, 解析 (微分・積分)
		物理	力学, 熱, 波動, 電気, 磁気, 原子
		工学専門	機械力学, 材料力学, 流体力学, 制御工学, 電磁気学, 電気回路から 1 題選択
	電気 電子	数学	線形代数, 解析 (微分・積分)
		工学専門	電磁気学, 電気回路, 電子回路
	化学	化学	基礎化学, 無機化学, 有機化学, 物理化学
		工学専門	化学が関係する工学についての基礎知識
	材料	工学専門	材料工学に関する基礎知識

九 州 工 業 大 学

大学院工学研究院事務課教務係

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 093-884-3332

入試・教育接続課入試係

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 093-884-3056